

大島畠田遺跡の主とは？

島津荘の政所はいずこ？

平成 29 年度歴史シンポジウム

大島畠田遺跡から島津荘へ ～盆地の黎明～

平成 30 年 1 月 21 日 (日) 13:00 ~ 15:30

ウェルネス交流プラザ (ムジカホール)

入場無料 * 駐車場 3 時間まで無料

基調講演 五味文彦氏 (東京大学名誉教授)

パネリスト 柴田博子氏 (宮崎産業経営大学教授)

谷口武範氏 (宮崎県教育庁文化財課長)



五味文彦氏

主催 都城市教育委員会

後援 朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞西部本社・西日本新聞・宮崎日日新聞社・南日本新聞社
NHK 宮崎放送局・MRT 宮崎放送・UMK テレビ宮崎・BTV 株式会社・シティエフエム都城

問合せ 都城市教育委員会事務局文化財課 0986-23-9547

シンポジウムで取り上げるのは・・・

～10分でわかる！教科書には載っていない都城の歴史（奈良・平安時代編）～

I 先駆者たちの出現（8世紀～9世紀初頭）

奈良に大仏が造られた頃、都城はあまり栄えていなかったようですが、8世紀後半には、仏教や文字を知る身分の人々もくらしていたと考えられています。

* 当時、仏教や文字は身分の高い人を中心に広まっていきました。

II 地方有力者の出現～第1次開発ラッシュ～ (9世紀中頃～10世紀前半)

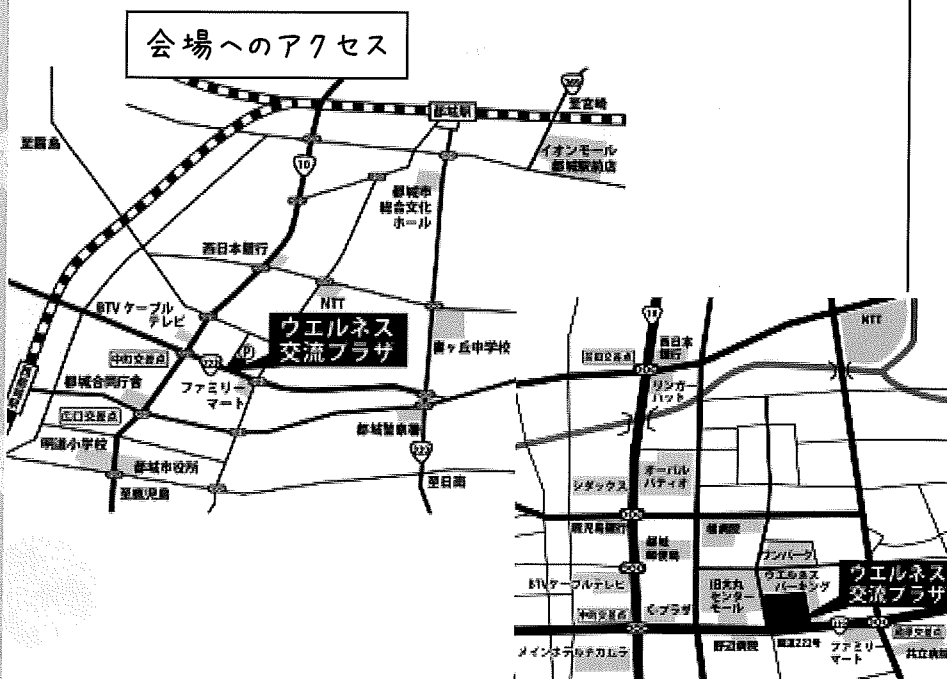
都城では、9世紀中頃から10世紀前半に爆発的に遺跡が増えます。当然人口もかなり多くなったことが考えられます。

なかには、下級役人や平安京の貴族と変わらないくらしをおくる有力者もいたようです。金田町にある大島島田遺跡は、地方有力者の邸宅跡と考えられており、地方有力者の出現を具体的に物語る貴重な遺跡として、国指定史跡として現地に保存され、歴史公園として市民に公開・活用されています。ただし、この遺跡の主がいったい誰なのか、現在のところ分かっていません。

III 無主の荒野から島津荘誕生へ～第2次開発ラッシュ～ (10世紀後半～12世紀)

9世紀中頃から10世紀前半に爆発的に増えた遺跡は10世紀後半以降激減します。その原因はわかっていますが、都城盆地は管理する主を失った荒地が広がったと考えられます。

その後、万寿年間(1024～28)に平季基が開発し、関白藤原頼通に寄進し「島津荘」が成立します。荘園成立期以降は、盆地南部を中心に遺跡が営まれています。平成28年度に発掘調査が行われた郡元西原遺跡からは、「U字」に屈曲する平安時代末の大溝が発見され、「島津荘」の現地の経営拠点の可能性のある遺跡と考えられています。



奈良・平安時代の主な出来事

- 710 都を奈良(平城京)に移す
- 712頃 水俣駅、島津駅が置かれる
- 735 東大寺に大仏が造られる
- I 784 都を京都(長岡京)に移す
- 794 都を京都(平安京)に移す
- 810 葉子の変
- 842 承和の変
- 866 応天門の変
- 894 遣唐使を廃止する
- 899 菅原道真が右大臣になる
- II 901 菅原道真が太宰府に左遷
- 905 『古今和歌集』完成
- 935 平将門の乱
- 936 藤原純友の乱
- 1001頃 清少納言『枕草子』を表す
- 1008頃 紫式部『源氏物語』を完成
- 1016 藤原道長が摂政となる
- 1019 藤原頼通が関白となる
- この頃、平季基が関白藤原頼通に島津荘を寄進する
- 1053 藤原頼通が平等院鳳凰堂を完成させる
- III 1069 後三条天皇が荘園整理を行う
- 1086 白河上皇の院政がはじまる
- 1156 保元の乱
- 1159 平治の乱
- 1167 平清盛が太政大臣となる
- 1185 平氏が滅びる
- // 惟宗忠久が島津荘下司職に任命される(島津忠久と名乗るようになる)

* □は都城関連の出来事

* お車でお越しの方は、ウエルネス交流プラザ併設の駐車場を御利用下さい。駐車場料金3時間まで無料となります。